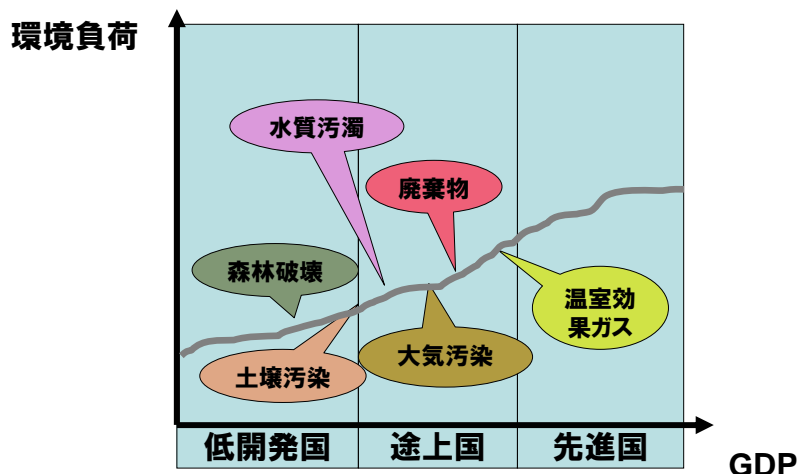


# アジアにおける環境人材 についての論点

財団法人地球環境戦略研究機関  
小林正典

## 経済発展段階と環境問題



経済発展段階により環境課題の優先度が異なる

→ 優先的環境課題・対策の重点化と予防的対策が重要 2

## アジアにおける環境人材

→ 環境問題の現象面だけでなく根本原因を改善できる能力を持った人材が求められる。

- アジアではどのような環境人材が活躍すべきか？
  - アジアの伝統的な知見を活用・普及でき、かつ将来を見据えたグローバルな視点にたった行動ができる人材
  - 環境分析・計測を正確に実施できる能力を持った人材
  - 環境負荷を低減できるグリーンな技術開発を行う人材
  - 何が最大の問題であるかを見抜く人材の育成
- それにはどのような人材育成があり得るか？
  - 個別の人材育成(直接的アプローチ)
  - 教育者を育成することによる人材育成システムの確立(間接的アプローチ)

→どの人材像・育成アプローチが適切と考えるか？

## アジアで必要とされる人材の素養

- 事業者・企業
  - 環境計測や環境管理技術を有する技術者
  - 環境規制などの政府の施策を遵守し、環境保全に資する事業に積極的に取り組む経営者
- 行政
  - 深刻な環境問題に対応する施策を企画・立案するとともに、適切な執行システムを構築する人材
- NGO・市民
  - 企業や政府の方針や行動などをチェックするとともに、持続可能な社会を実現するための活動を企画、実行できる人材

→いかにしてそうした素養を兼ね備えた人材を育成すべきか？

## アジアで求められる人材と素養

### 短期的

- 環境モニタリング・測定技術
- 省エネ・循環型(グリーン)技術開発・適応を担う技術者
- 進取究明の精神、環境保全・持続可能性を実現しようとする倫理観や実行力

### 長期的

- 問題の優先度を統合的な観点から判断できる能力
- グリーン化に向けた技術・開発力やシステム・商品・サービス等を導入する実行力
- 法社会・文化的知識と社会の現状と将来像を分析できる能力
- 将来顕在化する環境問題に対し予防・改善措置、技術・社会システムの革新のための政策立案・企画・実践力
- 国際交渉を担い知識とコミュニケーション能力

5

## アジアにおける環境人材育成の論点

- **アジアの途上国で必要とされる環境人材は？**
  - 環境人材像のイメージ
  - タイプ・職種
  - 今後育成が必要となる人数
- **アジアの途上国に必要な環境人材の育成のために大学でどのような教育を行うべきか？**
  - プログラム(教養・専門・大学院)
  - 教育手法(伝統的な講義・ロールプレイ/プレゼンテーション/ディベート・現場実習・インターンシップ・セミナー・実践型学習)
  - 大学の仕組み(組織・連携・外部評価)

6